

【No.15 神戸未来共創思考サロン】

● **活動地域** 兵庫県神戸市（一部神戸市外も含む）

● **神戸未来共創思考サロンの特徴**

■ **特徴① 域内のDX関連活動を連携**

■ **特徴② 複数テーマを同時に推進**
(産業実態に合わせたテーマ設定)

■ **特徴③ リード企業から実証**



設立の背景・主な構成員

● **地域DX推進コミュニティ設立の背景・きっかけ**

神戸市内では業種ごとにDXの推進度合いに大きな違いがある上、相互の情報連携やノウハウの共有が十分でないため、テーマ毎の課題を解決しつつ相互共有できるコミュニティが必要と判断。

● **代表機関**：公益財団法人神戸市産業振興財団

中小企業に対する公的支援機関として、神戸市施策と連携しつつ、DX推進のコアとなるリード企業を選定・伴走支援を行う。

● **構成員**：

- ・ 国立大学法人神戸大学バリュースクール：課題抽出, 仮説検証
- ・ 公益社団法人兵庫工業会：課題企業紹介, ものづくりDX推進
- ・ 株式会社三井住友銀行：課題企業紹介, 地域コミュニティ伴走
- ・ 株式会社キール：サービス業向けITソリューション提供
- ・ 株式会社神戸デザインセンター：IT企業紹介, 情報発信, 運営
- ・ 株式会社スクラムサイン：システム開発, コミュニティ運営
- ・ DsD合同会社：産学官共同研究促進, ITソリューション提供
- ・ 神戸市：DX推進施策連携, ITソリューション企業紹介

支援活動の内容

① **地域企業のDX推進に向けた課題分析・戦略策定の伴走型支援**

域内の産業に照らして、工業分野と商業分野で5分野を設定し(ものづくり、エネルギー、生活産業、旅館・宿泊業、第二創業)、地域でキラリと光る活動や次世代経営者の中小企業を「リード企業」として目利き・選定(各業種で複数のテーマを選定し、計11テーマとなった)。

選定した各リード企業で実現したい原体験に基づくビジョンを基礎にビジネス面、共創面より仮説構築を伴走することで共創事業の旗上げと実現可能性の高い事業戦略策定を支援。

② **地域企業とソリューション提供事業者 (ITベンダー等) とのマッチング**

テーマ毎に必要なソリューション提供事業者を、構成員と相談の上でマッチング。実際のマッチング支援対象企業は**各分野あたり1社以上実施(計6社)**。

③ **その他、地域企業のDX推進に向けた支援活動**

テーマ毎に地域内外の関係者・行政関係機関等との連携を推進。連携内容の認知を広げるために**セミナーを2種類開催**(技術革新セミナーとトランスフォーメーションセミナー)するとともに、**専用サイトを公開**しブランディングに努めた。

● **キーパーソン**

➤ **代表機関名**



➤ 富山 明男 (公益財団法人 神戸市産業振興財団)

財団の理事長であり、2015～2019年には神戸大学大学院工学研究科長を経験。DX推進による産学官連携のキーマンを繋ぎ、全体最適を図る。

➤ **構成員**



➤ 舟橋 健雄 (公益財団法人 神戸市産業振興財団
/株式会社神戸デザインセンター)
財団のシニアアドバイザーであり、神戸デザインセンターの代表取締役として、神戸市内外のイノベーション創出・コミュニティ運営の実務を担う。

● **問い合わせ先**

公益財団法人神戸市産業振興財団 産業イノベーション推進部 牛尾・舟橋 TEL: 078-360-3208

<https://www.kobe-fcs.jp/>

【No.15 神戸未来共創思考サロン】

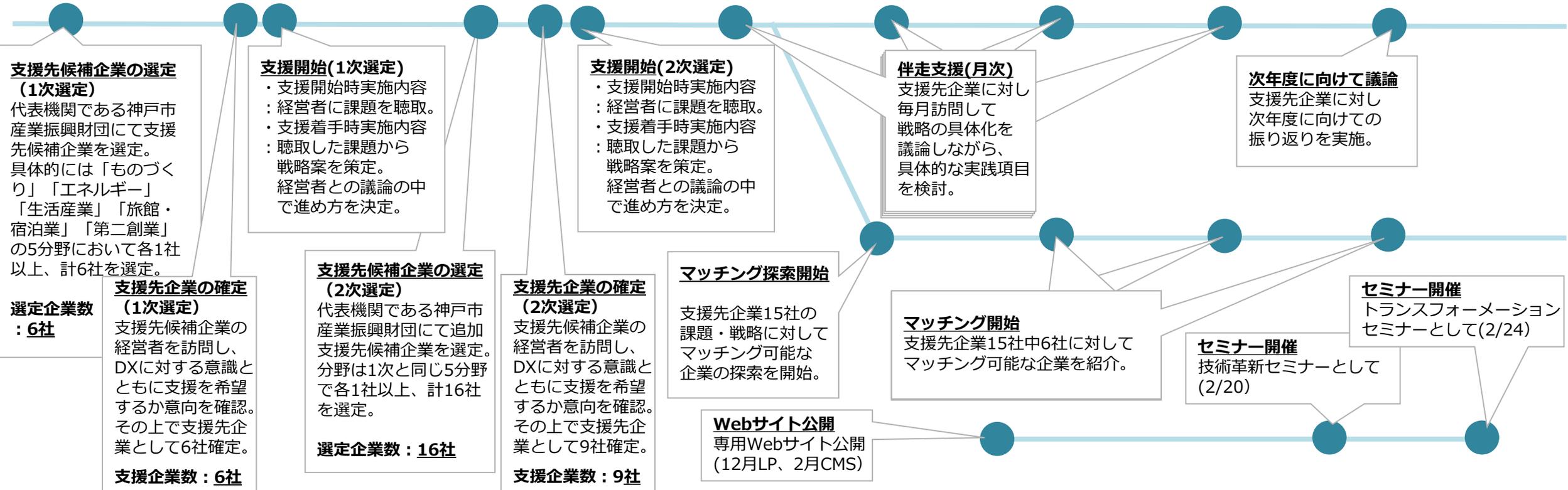
支援スケジュール（令和4年度実績）

準備フェーズ【6-7月】

第1フェーズ【8-9月】

第2フェーズ【10-12月】

第3フェーズ【1-2月】



・事業実績：支援を実施した企業数（①課題分析・戦略策定、②課題分析・戦略策定・ベンダーとのマッチングの内訳）、実績結果への所感等

1次・2次選定企業22社のうち、15社を支援対象企業として支援。15社のうち7社は課題分析・戦略策定・ベンダーとのマッチングまで完了（マッチングした企業は6社）。15社のうち残り8社は課題分析・戦略策定まで実施見込で、マッチングについては次年度に持ち越しとなった。当サロンはDXの中でも「D」の「デジタル化」よりも「X」の「企業変革」を主眼に置いて進めていることもあり、企業を紹介して終わりではなく、短期での成果が見えにくいのが難点ではあるが、次年度以降も引き続き伴走支援を続けていきたい。

・波及効果について：

1次選定の支援先企業（エネルギーをテーマに支援）の中から、さらに別の事業アイデア（ものづくり分野にAI技術を掛け合わせたアイデア）が生まれ、別業種の支援テーマとして組成することになり、同テーマでのコンソーシアムの結成や2月の技術革新セミナーの開催にも繋がった。また、地元行政機関である神戸市役所内の各部署へのエミネンス向上により当サロン事業が横串の施策として期待されているマインドが情勢され、今年度構築できた小さな活動が次年度以降に他部局の施策と連携できる環境整備が構築できた。

・自走化への道筋：受益者負担の考え方、構成員への会費負担の引き上げ、広報活動の強化等

次年度は代表機関の独自予算での展開に繋げ、その翌年度以降は構成員への会費負担や支援先企業に対してマッチングの成果報酬等で自走できる財源を作っていく。

【No.15 神戸未来共創思考サロン】

支援好事例（令和4年度実績）

支援先企業名：伊福精密株式会社

● 支援先企業の概要：

- ・業種：金属加工製造業
- ・資本金：5000万円
- ・従業員数：48名
- ・主要製商品／サービス：各種試作品・量産品の制作、治工具・金型の設計製作、難加工材の工法開発
新素材の加工方法の研究、製品測定事業



● 支援先企業が抱える課題：

数年前より、従来の精密機械加工事業に加えてAM（付加製造、積層造形）分野、リバースエンジニアリング、工法再設計のデザイン力を活かしたデジタルサービスについて展開しており、様々な実証を行っているが、市場の拡大にあたっては、産学官様々な主体との共創を必要としていた。特に経営者自身がトップセールス中心で行う新規事業展開においてはリソース面から限界を感じており、当財団や事業プロデューサーを中心とした関連ネットワークおよびビジネス展開のナレッジを必要としていた。

● 支援内容：

主に月1回～2回程度の訪問を経て事業プロデューサーと連携して展開事業や経営者の想いを可視化したうえで、マッチング先を探索したりアクションの伴走および協議資料の作成を行うことで、金型レスのモノづくりのトランスフォーメーション創出に向けて貢献。大きく、3つの分野で事業プロデューサーを交えて展開戦略を検討した。1つ目は既存取引先との連携における新たなデジタルサービス創出に向けた戦略策定支援を行った。具体的には連携先のメリットやステークホルダーの役割等を可視化して次のアクションに現在進行中で繋げている。2つ目は社会貢献性の高い事業創出に向けたマッチング試行を行った。具体的には美術品等のデジタル化および金属加工による再現等の可能性について行政機関と連携して探索している。最後に、関連する今後を支える市場提案型のDXものづくり人材育成の可能性について地元的高等専門学校と連携して今後の新たなカリキュラムの構築やアントレマインドの醸成の可能性について現在進行中で検討している。

● 支援成果：

当事業の支援対象および戦略策定を行ったうえで、支援対象企業の強みを可視化することで説明ストーリーを構築。また、現在の各種実証プロジェクトの現状や課題を洗い出し整理を行った。そのうえで、アクションとしては、当サービスの連携先との協業に向けた協議を開始（令和5年1月）、防衛省への展示会に参加（令和4年10月）、地元博物館との連携協議検討（令和4年9月）、地元高等専門学校との人材育成連携に向けた協議（令和4年11月）を主に行っており、継続したトランスフォーメーションを重視した事業組成に向けて伴走支援を継続していく予定である。

● 支援成功のポイント：

まず、支援対象企業が確かな技術・サービスに裏付けられた強みを有しており、経営者の主体性が高いことが成功の前提となると考えている。この点に加えて、技術的側面を超えた事業プロデューサーが関与することでビジネス視点として連携先を巻き込んでいくにあたり、絵図を含めた可視化された協議資料を策定し、戦略として協議先を徹底的に分析したうえでの相手先のメリットや役割を整理した協議過程およびプロジェクト推進に向けた1歩先を明示した着実なマネジメント支援が経営者にとって良い壁打ち役となるとともに展開の下支えとなったと感じている。